Ⅳ　初任者としての１年

「大事を成さんと欲する者は
　まず小事を務むべし
　小を積めば大となる」

二宮　尊徳

初任者としての１年を振り返って

秩父市立秩父第一小学校　教諭　田鴎美香

１　はじめに

4 月から初任者として、秩父第一小学校へ赴任して 1 年が終わろうとしています。私にとってこの 1 年は全てが新しく、新鮮なことばかりでした。最初は、なにがなんだかわからないまま 1 日があっという間に過ぎてしまうという日々が続きました。先輩の先生方に囲まれ、子どもたちと過ごしていく中で、たくさんのことを教えていただき、学ぶことができました。子どもたちの笑顔に救われる場面もたくさんありました。初任者として勤務してきた 1 年間で、研修や先生方の示範授業、アドバイスや励ましの言葉など多くの支えの中で、少しは成長できた 1 年だったように思います。

２　教科指導

教科指導は、本当に難しく悩むことも多々ありました。子どもたちにとって、「わかりやすい」そして「楽しい」と思える授業を目指し、日々授業を行いました。しかし、始めは自分の考えていた発問では、児童の反応が悪いことばかりでした。子どもたちの考えをうまく引き出すことができず、どうしたらよいのかと悩みました。そういうとき、先輩の先生方の授業を参観させていただいたり、ご指導していただく中で学級の子どもたちに合った発問の仕方や指導方法を学ぶことができました。まだまだ、未熟な部分が多くうまくいかないこともありますが、自身が学び続ける姿勢を忘れずに、児童の「わかった」「できた」「楽しい」をたくさん引き出せるよう教材研究を重ね、努力し続けたいと思っています。

３　学級経営

子どもたちが「学校が楽しく笑顔でいられる学級」を目指し取り組んできました。もめ事が起こっても、まずは自分たちで話合い解決できるようにと心がけたりしました。子どもと教師のコミュニケーションはもちろんのこと、子どもたち同士もコミュニケーションを多くとることで、お互いを理解することが少しずつできるようになってきました。ここまでくるまでに、どうしたらよいか悩むことも多くありました。そして、私自身が余裕がなくなるときこそトラブルも多くなることに気づき、余裕をもつよう心がけました。「子どもと一緒に楽しむときは全力で活動する」「指導するときは真剣に子どもと向き合う」ことを繰り返し行い、指導をしていきたいです。

４　おわりに

初任者という 1 年間は、今後経験することのできない、大変貴重なものとなりました。校長先生、教頭先生をはじめ秩父第一小学校の先生方、拠点校指導員の栗原先生、そして研修でお世話になった先生方のお陰でたくさんのことを学ばせていただきました。この 1 年の経験や初心を忘れず、これからも子どもたちと真剣に向き合える教師を目指したいと思います。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立花の木小学校　教諭　大王聖也

１　はじめに

教師としてスタートした１年が、もう過ぎようとしている。中学時代に教師を志してから 10 年以上の時間が流れ、ようやく夢のスタートラインに立てたように思う。多忙ではあったが非常に充実したあっという間の１年間だった。

２　重点的に行った教科指導等

（１）学習規律の定着

・　規律ある態度の定着は教科指導を行う上での土台であり、チャイム席・学習準備の指導・授業を受ける際の態度については、年度当初から指導の徹底をしてきた。そのため、4 月当初はチャイム席や次の学習の準備ができない児童が目立ったが、現在ではしっかりとできるようになった。また、授業中の態度に関しては私から注意しなくても相互に周りの児童が注意できるようにまでなった。

・　返事や発表の仕方について約束事を決め、根気強く指導することで学習規律が身についてきた。また、提出する際や何かをしてもらった際の「お願いします」「ありがとうございます」等のお礼についても徹底を図っている。

（２）校内研修での体育の研究授業

・　11 月に体育の「多様な動きから体作り」の領域での校内研修研究授業を行う機会があった。色々と試行錯誤し、多くの先生方にも御助力いただいて何とか無事にやりきることができた。その際に、子どもの動かし方や声のかけ方、活動するための場作り、準備や片付けなど多くのことを学ぶことができ、自分自身非常に勉強になった。

（３）児童の漢字の習熟

・　クラスの児童の実態を踏まえ、初任者研修の授業力向上研修課題として取り上げた。日頃から漢字に触れる機会を多く設け、またクラスの児童の間違いの多かった漢字を分析し専用の漢字テストを実施するなどの試みを行った。その結果、1 学期に比べ 2 学期の学期末漢字テストの１回目の合格者が２倍近くに増えた。

（４）児童とのコミュニケーションを図る

・　児童一人一人の良いところを見つけ、たくさん褒められるように心掛けた。清掃指導はもちろん、休み時間には児童とのふれあいや学級レクにも参加するように心掛け、児童と関わる時間をできるだけ多くするように努めてきた。

３　おわりに

この１年を振り返ってみると、目先の仕事に追われ、その日その日を何とか切り抜けている自分自身がいた。上手く指導できなかったり、空回りしたりすることも多くあった。そのようなときに、校長先生を始め、指導担当の先生、学年主任、多くの先生方からのご指導や助言で頑張ることができた。また、未熟な私を先生と呼び慕ってくれた児童にもたくさん助けられた。この１年間で学んだことを次年度以降に生かし、子ども達と共に学び続け、教師としてさらに成長できるように今後も努めていきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立西小学校　教諭　坂本優子

１　はじめに

４月から初任者として、西小学校へ着任し、早くも１年が過ぎようとしています。振り返ると、ドキドキ、ワクワクしながら迎えた始業式で、３年２組の子ども達と出会いました。初めて担任する３２名の子ども達の笑顔を前に「がんばるぞ！」と決意し、それと同時に、責任の重さを感じました。学級担任としての日々は、初めての連続で、戸惑うこともありました。そんな中、先輩の先生方からのご指導や励ましの言葉を頂き、充実した１年を送ることができ、少しは成長できたように思いました。

２　教科指導

小学校では、すべての教科を指導するということで、とても不安がありました。どうしたら理解してくれるのか、手を挙げてくれるのか、色々なことを考えて授業を行う中で、教えることの難しさを感じました。そんな中、先生方の授業を拝見させて頂き、多くのことを学ぶことができました。どれも魅力ある授業ばかりで、子どもたちが楽しそうに学ぶ姿が印象的でした。子どもとの関わり方や発問の工夫など、楽しそうに行うための要素がたくさん詰まっていました。見せて頂いたことからできそうなことを授業に取り入れて実践しました。そのことにより子どもの反応が違うことがあり、いかに子どもたちの「わかった・できた」を引き出すことが大切であるかを改めて実感することができました。

３　学級経営

「子どもたち一人一人を大切にする温かいクラス」をつくろうと考えていた私は、一人一人との関わりを大切にすることに力を入れました。しかし、毎日が忙しく過ぎて行く中で、すべての子どもたちと関わるのは難しく、気づくと授業中子どもたちが落ち着かないことがあったり、ささいなトラブルがあったりして、クラスづくりの難しさを感じました。そんな時に先生方から、子どもたちの対応の仕方や学級の雰囲気づくりなどのご指導を頂き、前向きに考えることができました。初めのうちは、騒がしくしたり、学習態度がよくなかったりする子どもに対して、叱って押さえつけていたところがありました。しかし、いつも叱っているばかりでなく、子どもたちに対して、褒めることを増やすように取り組みました。姿勢がよい児童に「よい姿勢ですね！」と褒めると他の子どもたちもよい姿勢になろうと意識し、学習態度に変化が見られました。教師が考え方を変えるだけで、変容を見せる子ども達を通して、叱ることと褒めることのバランスが大切であることを学びました。

４　おわりに

１年を振り返ると、毎日をただ夢中で過ごしてきたように思います。校長先生、教頭先生、学年主任の先生をはじめ西小学校の先生方、拠点校指導員の栗原先生、そして研修でお世話になったすべての先生のお陰でたくさんのことを学ばせて頂きました。この１年で経験したことを生かし、２年目も子どもたちのために常に学ぶ姿勢を忘れずに日々精進していきたと思いました。本当に１年間、ありがとうございました。

初任者としての一年を振り返って

秩父市立西小学校　教諭　持田翔平

1　はじめに

４月１日から秩父市立西小学校へ赴任し、もうすぐ一年が過ぎようとしています。４月８日の始業式、５年２組３２名の明るく、元気いっぱいな子どもたちの担任となりました。初めての担任で、楽しみな気持ちよりも不安や緊張でいっぱいでしたが、「先生！」と多くの子どもたちが声をかけ、寄ってきてくれたおかげで、その不安や緊張もなくなりました。「子どもたちが明日も来たいと思えるクラスをつくろう！」と決心し、私の初任者としての一年がスタートしました。

2　学習指導

小学校は全教科の授業をしなければなりません。毎日試行錯誤しながら授業の準備を進めてきました。子どもたちにとって「わかる授業」を目指したものの、なかなか上手くいかず、自分の力のなさを日々実感しました。そのような時に周りの先生方が熱心にご指導してくださり、また示範授業などで参観させていただいたことをヒントにして授業力の向上に努めました。まだまだ未熟な点はこれから努力し続けたいです。

3　学級経営・生徒指導

この一年間で最も苦労したのが、学級経営や生徒指導でした。５年生という高学年の時期は、心も体も大人になりつつあり、難しい年頃の子どももいました。時には、学級に迷惑をかけたり、友達を傷つけたりする言動がありました。その際に「連絡・報告・相談」の大切さをあらためて教えていただきました。どんな小さなことでも報告をし、また学校全体で指導していただいて、私も自信をもって子どもたちの前に立つことができました。また、５年生は学校の中心としても、多くの学校行事に取り組むことが多く、一生懸命活動する子どもたちを見て、良さや成長を感じ取ることができました。その姿にとても嬉しく、そして頼もしく感じました。

4　おわりに

初任者としての一年間は教員としてはもちろん、社会人として、そして人として本当に多くのことを学ばせていただき、「一歩前進」することができました。憧れていた先生の仕事は楽しいことばかりでなく、時には辛く大変なこともたくさんありました。しかし校長先生や教頭先生、学年主任の先生や拠点校指導員の栗原先生、西小学校の多くの先生方のおかげで今日まで頑張り抜くことができました。そして、いつも笑顔を絶やさず私を先生として成長させてくれた子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも子どもたちのために精一杯努力していきたいと思います。一年間ありがとうございました。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立尾田蒔小学校　教諭　岩嵜　誠

１　はじめに

着任した日、「職員室の温かな雰囲気」が私の第一印象でした。緊張している私に皆さんがやさしく声をかけてくださりホッとしたのを覚えています。

始業式の担任発表で、担当するクラスの子どもたちの前に立った時、おもわず笑顔になってしまいました。「ここから『教師になって第一歩』が始まる。」不安な気持ちもありましたが、ドキドキワクワクの気持ちがとても大きかったことが思い出されます。

２　教科指導

子どもたちにとって「分かる楽しさを感じてもらえる授業」を目指し、教材研究に取り組みました。しかし、教材研究をすればするほど、ここでプロジェクターを使うべきか、パソコンで資料を掲示すべきか、実物を見せるべきかと悩む一方でした。ですが、各教科の主任の先生方に示範授業をしていただく度に、教材の提示の仕方や間の取り方、その教科では何がコツでポイントなのかを学ばせていただきました。

授業を進めるにあたり、子どもたちの反応が自分の想像していた展開とは違い、スムーズに進めることができなかったことも多く、まだまだ教材研究が足りなかったと反省しました。

３　学級経営と生徒指導

子どもたちと接するとき、どんな些細なことでも真剣に向かいあうことを考えて行動しました。休み時間には、子どもたちと会話をしたり、一緒にドッジボールをしたりしているうちに、子どもたちのことが色々と分かってきました。その子の集中が途切れるときはどんな時なのか、この表情の時はどんな心境なのかなど、授業の意欲付けややる気にさせる方法など、教科指導に生かせることが多いということを学びました。

もう一つ気を付けていたことは、「ほめる指導」です。学校や自分が目指す児童像に向かわせるために、間違っている子を一方的に叱らずに、しっかりできている子をたくさん褒めました。誰かが褒められているのを見ると、「自分もしっかりとしなくては。」「自分も認められたい。」と考えるようで、良い態度を示してくれました。「１０褒め１叱り」をモットーに、これからも笑顔を絶やさずに教壇に立ちたいと思います。

４　終わりに

この１年をふり返り思い出すことは、多くの先生方からご指導していただいた事ばかりです。日々の指導をしてくださった校長先生や教頭先生、校内研修で基本を教えてくださった拠点校指導教員の先生や教務主任の先生、示範授業で指導のコツを教えてくださった教科主任の先生方、体と心の健康を教えてくださった保健の先生、そして、毎日色々な指導やアドバイスをして、気を遣ってくれた学年主任の先生、指導してくださった全ての先生方に大変感謝しております。「指導する」ということは、とても大変で時間を費やすことであり、その時間を私に費やしていただいたことはこの上ない喜びであります。この１年間で受けたご恩は、いつか私が成長して少しでもお役に立つときには、「倍返し」していきたいです。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立原谷小学校　教諭　飯野友里香

１　はじめに

４月から原谷小学校に着任し、早くも１年が過ぎようとしている。始業式を終え、２年２組の教室で33人の子どもたちと向き合った時、嬉しさと同時に責任の重さや不安を感じたのを今でも覚えている。この１年を振り返ってみると、先輩の先生方や保護者・地域の方々、子どもたちに助けられながら過ぎた１年であったと感じている。

２　教科指導

２年生の担任となり、教科指導の難しさを感じた。「どの子どもにも分かる授業」「分かった・できた・楽しい」と感じることのできる授業を目指して、教科指導をしている。しかし、私の伝えたいことが、子どもにうまく伝わらないことがあったり、子どもの考えをうまく引き出すことができなかったりした。このような時に、先輩の先生方にどのように授業を進めたかを聞いたり、授業を見せていただいたりした。先輩の先生方の授業を真似しようと思ってもできないことが多かったが、教材の使い方・発問の仕方などを学ぶことができた。日々授業を行う中で、新たな課題が出ることばかりだが、児童の実態を把握し、教材研究に励み、「どの子どもにも分かる授業」「分かった・できた・楽しい」と感じることのできる授業を目指していきたい。

３　学級経営

「相手を認め、励まし合い、思いやることのできる児童の育成」を目指して、学級経営を行ってきた。４月から、笑顔で接し、子どもたちとの会話を大切にしようと心がけてきた。日々の学校生活の中で、私自身が感謝の気持ちを言葉で表すようにしてきた。帰りの会でも友達のよかったことが言えるように伝えてきた。子ども同士の人間関係のトラブルはよく発生したが、管理職の先生、学年の先生方に相談し、１つ１つ解決していくことを心がけてきた。今後も丁寧に子どもたちの話を聞き、対応していきたい。

４　おわりに

この１年間、学級担任として、教科指導や学級経営などを行ってきたが、多くの方々に支えられてきたと感じている。機関研修や学校研修では、学習指導や学級経営などについて学ぶことができた。多くの学びができたということは、多くの先生方の支えがあったからであると感じている。校長先生をはじめ、原谷小学校の先生方や保護者・地域の方々や初任者研修でお世話になった先生方、子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいである。この１年間で学んだことを生かし、日々学び続けていきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立原谷小学校　教諭　茂木智史

１　はじめに

民間企業、臨時的任用教員を経て、この４月から新採用となった。４月当初は、秩父市での教員生活に希望だけでなく、不安も抱えていたことを思い出す。しかし、子どもとのふれあいや先生方のご指導・ご支援がその不安を消してくれた。この１年間、たくさんのことを学び、教員としてとても充実した日々を送ることができた。

２　教科指導を振り返って

明るく、元気いっぱいの子どもたちであり、授業中はたくさん発表してくれた。発表は性格によるところが多いが、発表の苦手な子もノートにまとめさせると、一人一人の考えや感性の良さが伝わってくる。「よく書けているから発表してごらん」と言うと、照れながらも発表するようになってきて、クラスの雰囲気も良くなった。どの教科でも、どの学年でも、指導するにあたり難しい場面が出てくるが、先輩の先生方にアドバイスをいただき、教材研究を行っていく中で、その難しい場面も楽しいと感じるようになることができた。

ノート指導では、黒板とノートがリンクするように、板書計画は子どもたちと同じノートを用いたり、私のノートを教室の後ろの黒板に掲示したりするなど、書くことに対する意識を高めるようにした。また、努力が見られたり、よく書けていたりするノートを写真に収め、プロジェクターでスクリーンに投影し紹介すると、「次は自分も紹介されたい」という思いが高まり、学習意欲を高めることができた。

３　生徒指導を振り返って

たくさんほめることを心掛けた。また、ほめる際にはどこがどう良かったのか具体的にほめる　ようにした。授業の様子はもちろんのこと、朝の会や掃除や給食の様子、ノート、靴揃えなどを写真に収め、プロジェクターでスクリーンに投影して良かったところをほめた。子どもたちは、「次もほめられたい」「今度はわたしがほめられたい」という思いから、困っている友だちを進んで助けたり、優しい言葉がけをしたりと、温かい雰囲気がクラスを包んでいた。

４　おわりに

この１年間、原谷小学校の先生方、保護者、地域の方々など、たくさんの人に支えられ、充実した１年を過ごすことができた。子どもたちと過ごす日々は、私にとってかけがいのない時間となり、すべてが成長のための大きな糧となっていた。常に初心を忘れず、学び続ける教師であるよう、日々自己研鑽に励んでいきたい。

初任者としての１年を振り返って

秩父市立久那小学校　養護教諭　三橋清美

１　はじめに

１年間を振り返ってまず思い出すのは、着任初日の職員会議である。１学期は健康診断や学校保健委員会をはじめとする保健行事が盛りだくさんで、自ら提案者となって進めていくのが不安でドキドキした。わからないことが多く、毎日のように他校や前任の先輩養護教諭に電話で質問していた。校内研修指導者の林由美子先生のご経験を参考に、日々の実践に繋げた。本校職員をはじめ、本当に多くの皆様に助けていただき、感謝している。以下、私がこの１年で学んだことをまとめる。

２　コーディネーターの役割

養護教諭の「連携」の大切さをよく学んできたが、現場に立ってその難しさと重要性を実感した。学校医をはじめとする外部関係機関との連携の多さにも戸惑ったが、特に保護者との連携に悩んだ。子どもの健康を守るには家庭と学校の連携が不可欠だ。しかし主な保護者連絡は担任が行うため、自分はどう保護者と連携すべきかと悩んだ。その際、担任との子どものなにげない話題を通して家庭の様子を知り、情報の共有がいかに大切かを実感した。現在は、管理職や担任の先生方と職員室で気軽に子どもの話題を出し合うことを心掛けている。ひとり職であるが決して孤立せず、積極的に連携し、養護教諭としてしっかりコーディネーターの役割を務め、信頼を獲得していきたい。

３　職務の特質を活かした健康相談

保健室には時々、目に見えないけがや痛みを抱えてくる子どもがいる。来室した子どもには少しでも元気で前向きな気持ちになり教室に戻ってほしいと願うが、保健室でできる処置に行き詰まり、どう対応しようか悩むことがあった。そんな時、ゆっくりと話を聞いて痛いところに手を当てるだけで治ってしまう子どももいた。これが養護教諭の行うことができる「手当て」なのだと気がついた。来室者対応は私にとって子どもと関わる大切な時間である。身体に触れる機会が多いことで子どもの変化にいちはやく気づくこともある。目に代わる手の感覚を研ぎ澄ませ、これからも丁寧に対応していきたい。

４　子どもの自立を支援する指導

常に誰からでも声をかけられやすいように、いつでも学校全体に安心感を与えられる笑顔を絶やさないよう心がけている。そんな中で毅然とした態度でいることに難しさを感じた。私が強く叱ることで保健室へ行きたくないと感じさせてはいけないと心配し、自分でも納得いかないまま指導をすることがあった。しかし、子どもの自立を支援したいという自らの目標を思い出し、けじめある筋の通った指導が大切だと再確認した。授業等を持たない養護教諭は子どもとの一瞬一瞬の関わりが大事なので、褒める時も叱る時も心に響く言葉を与えてあげたい。

５　おわりに

養護教諭という職の成果は、１年では見えないことが多いのかもしれないと感じた。長い目で未来を見据えて子どもに寄り添い関わり続けることが大切だと感じる。全校の副担任を務めるつもりで情熱をもって働いていきたい。現在私は久那幼稚園の養護教諭も兼任しており、小学生とはまた違った学びもたくさん得ている。今後、中学校や高等学校での勤務も考えられるので、幅広い発達段階に的確に対応できるよう常に勉強し続け、成長し続ける養護教諭でありたい。